

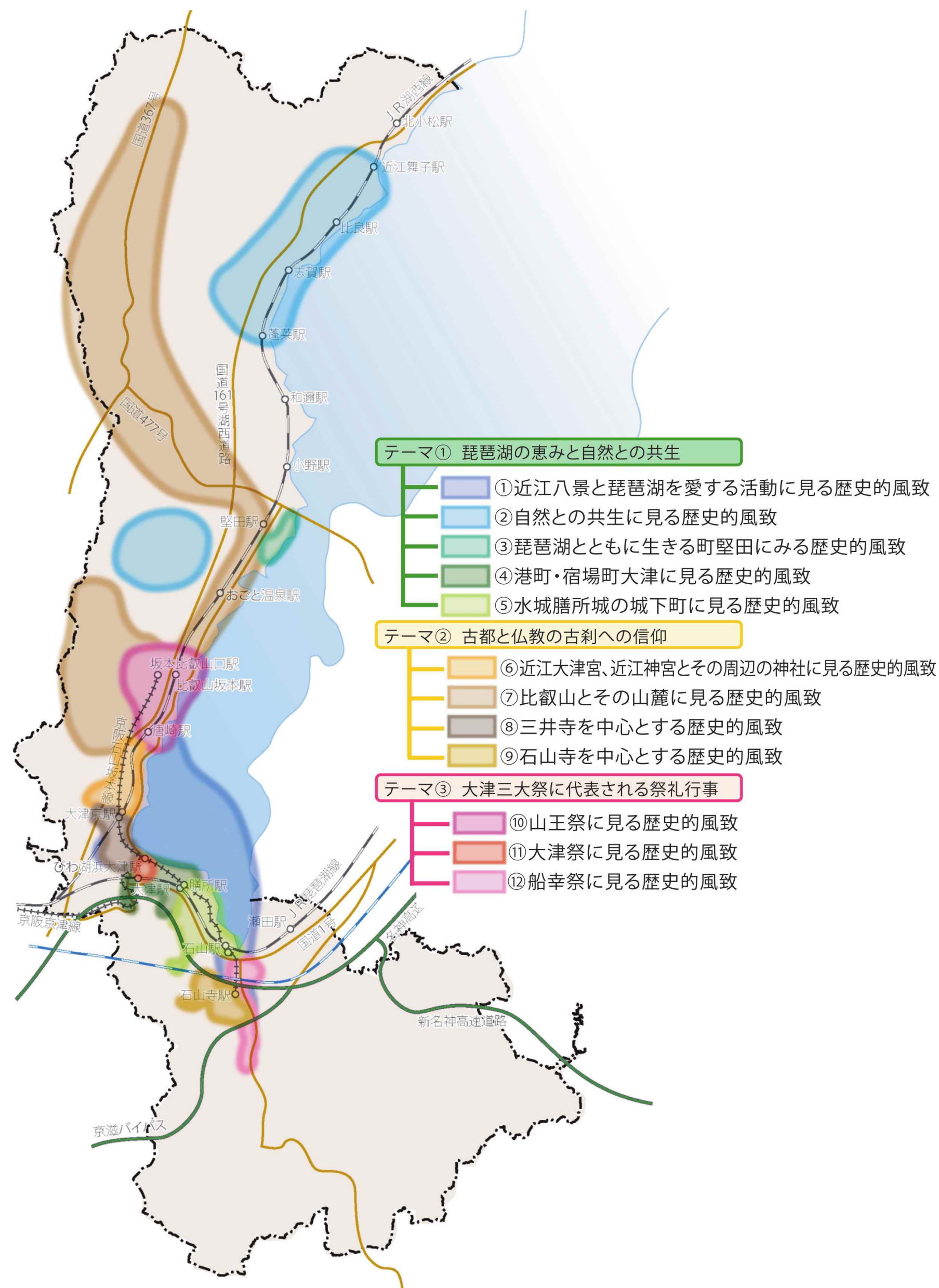
歴史的風致と 歴史的風致維持向上計画

歴史的風致とは、「歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地」(建造物)と「歴史と伝統を反映した人々の営み、生活、活動」(市民の活動)が、一体となってつくられた良好な市街地の環境を指します。これは、歴史的建造物に関わる人々の活動があって、はじめて良好な市街地の環境が守られていくからです。

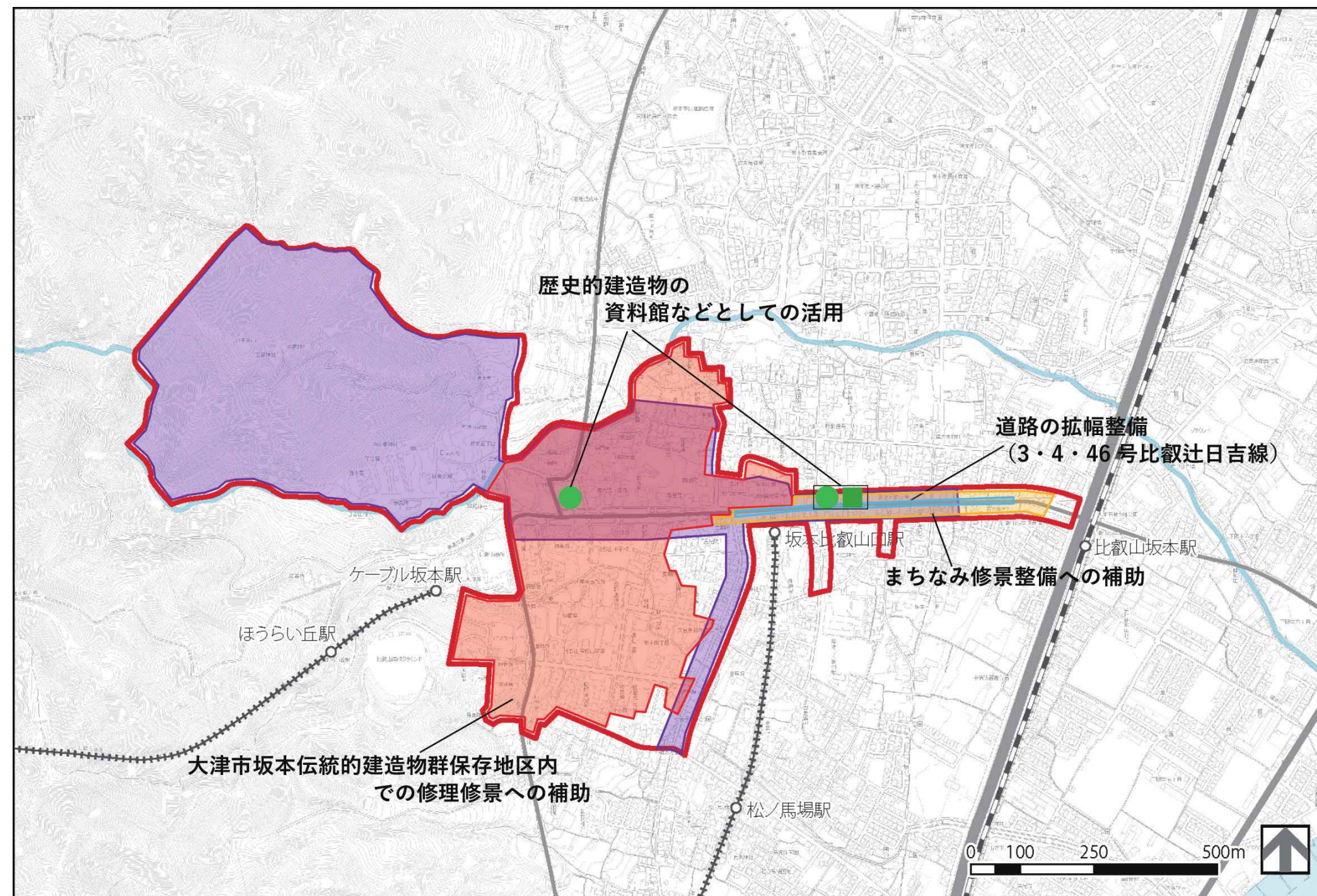
古くからの歴史をもつ大津市では、地域の固有の歴史、文化を大切にし、育てるとともに、それぞれの地域の歴史や生活文化を発掘し、それを活かし、大津市ならではの魅力を最大限に創出することで、まちづくりを目指します。

そのため、3つのテーマと13の歴史的風致からなる「大津市歴史的風致維持向上計画」を策定し、令和3年3月に全国で85番目の計画として、国の認定を受けました。

この計画では、重点的に事業を進める地域として、国指定文化財を中核とする「堅田重点区域」「坂本重点区域」「大津百町重点区域」の3つの重点区域を設定しました。



坂本重点区域



『坂本重点区域』は、

「⑦比叡山とその山麓に見る歴史的風致」と

「⑩山王祭に見る歴史的風致」の2つの風致が重なっています。

平安京の北東の鬼門に位置する王城鎮護の寺として、朝廷や貴族の信仰を集めた延暦寺や、比叡山の鎮護神であった日吉大社とともに発展してきた町で、穴太衆積みの石垣や生垣、広々とした空間と緑を演出した庭園など、豊かな歴史的景観が今も残っています。

また、大津三大祭の一つである山王祭をはじめ、坂本総祭や綱引き行事などの祭礼行事、延暦寺や西教寺に関わる宗教行事や地蔵盆など、地域の活動が根付いています。

『坂本重点区域』では、歴史的建造物の資料館などとしての活用、大津市坂本伝統的建造物群保存地区での修理修景への補助、道路の拡幅整備、歴史的風致形成建造物の指定と保存、まちなみ修景整備への補助などの事業を通じて、歴史的建造物や石積みとせせらぎ、里坊の庭園などを保全し、それらと調和するまちなみ景観を形成するとともに、そこを舞台に行われる祭礼行事や地域に根付く信仰を将来に継承します。



(提供:延暦寺)

えん りやく じ こん ぽん ちゅう どう

延暦寺根本中堂

比叡山延暦寺は、延暦7年(788)最澄が入山して創建されました。平安京の鬼門に位置し、鎮護国家の寺として、朝廷や貴族の崇敬を集め、山上には東塔・西塔・横川からなる広大な伽藍を構え、多くの宗教者を輩出したところから「日本仏教の母山」とも呼ばれています。

延暦寺の総本堂にあたるのが根本中堂ですが、現在の建物は、織田信長による焼き討ち後、徳川三代将軍徳川家光によって寛永19年(1642)に再興されました。桁行11間、梁間6間の総檺造で、国宝に指定されています。

平成28年から令和9年までの計画で、屋根の葺き替えと彩色の修理が行われています。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



(提供:延暦寺)

えん りやく じ み し ほ

延暦寺御修法

延暦寺では主な法会だけでも年間80にも及ぶといわれますが、その中で最も重要なのが、4月4日から11日まで根本中堂で行われる御修法です。

起源は弘仁14年(823)に宮中で行われた秘法とされ、明治維新で一旦廃止されましたが、大正10年(1921)から復活したとされます。

天皇陛下の「御衣」を預かり、根本中堂の内陣に安置し、高僧により、天下泰平、万民豊楽、玉体安穩などが祈願されます。御修法の準備にあたっては、滋賀院門跡に保管されていた道具類が、仲座を中心とした坂本の人々によって延暦寺へと運ばれます。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



とうなんじ 東南寺本堂

東南寺は、最澄^{さいちょう}の創建と伝え、比叡山^{ひえいざん}の東南に位置するところから名前が付けられ、今津堂^{いまづどう}とも呼ばれていました。

明智光秀によって築かれた坂本城の旧二の丸にあたると想定され、北国海道^{ほっごくかいどう}（西近江路）に面した入口には、「坂本城跡」の碑が建てられています。

本堂は、間口7間、奥行7間で、慶長7年（1602）に東塔地福院円智によって復興されましたが廃れ、寛永17年（1640）に再興^{かんえい}したと伝えます。

現在の本堂は、江戸時代の部材を再利用して、明治15年（1882）に建てられたものと考えられています。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致

とづせつぼう 戸津説法

最澄^{さいちょう}は、坂本の生源寺^{しょうげんじ}、下阪本の無漏堂^{むろうどう}（観福寺^{かんぶくじ}）、東南寺で人々に法華經^{ほけきょう}の教えを説いたと伝えられます。織田信長による山門焼き討ちの後には東南寺^{とうなんじ}のみとなり、その伝統が「戸津説法」として、今も伝えられています。

毎年8月21日～25日の5日間、本堂や境内に地元住民をはじめとして多くの人々が集まる中、天台座主^{てんだいざす}から指名された高僧^{せつぼう}（説法師^しといわれます）が、法華經^{くどく}の功德を説きます。

説法師を務めることは宗門の中では非常に名誉なことで、次代の天台座主の候補者になることを意味しました。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



(提供:西教寺)

さい きょう じ

西教寺本堂

天台真盛宗の総本山西教寺は、聖徳太子の創建で元三大師良源と弟子の恵心僧都源信が入山し、室町時代に真盛によって中興されました。

織田信長による山門焼き討ちで大きな被害を受けましたが、坂本城主であった明智光秀の尽力により復興し、明智一族の菩提寺となっています。

本堂は元文4年(1739)に上棟されており、前面2間を外陣、その奥に中央間口3間の内陣、左右を間口2間の脇陣としています。江戸時代中期を代表する本堂で、重要文化財に指定されています。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



(提供:西教寺)

さい きょう じ ほっ け せん ぶ え

西教寺法華千部会

4月の5日から7日までの3日間、法華経を読誦する行事で、宗祖をはじめとする追善、檀信徒の安寧、世界平和などを祈願して、営まれます。もともとは法華経を1,000部よむことを起源とします。

中日の6日午後には、本堂で西教寺仏教婦人会による御詠歌などの音楽法要、世界平和祈願のあと、大練供養が行われます。

山門前の安養院を出発した僧侶や檀信徒、稚児の行列は、桜並木の参道から宗祖大師堂の前を通り、本堂へ向かいます。法華千部会の中でも、最も華やかなものです。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



しょう じゅ らい こう じ

聖衆来迎寺本堂

聖衆来迎寺は、延暦^{えんりやく}9年(790)に最澄^{さいちょう}によって開かれた地蔵教^{じ ぞうきょう}院^{いん}が前身で、恵心僧都^{え しん そう ず げん しん}源信ゆかりの寺です。境内にある、本堂、客殿、開山堂、坂本城の城門を移築した表門が、重要文化財に指定されています。

本堂は、寛文^{かんぶん}5年(1665)の再建で、現在は棧瓦葺^{さん がわら ぶき}ですが、元はこけら葺であったことがわかっています。天台宗本堂の典型的な間取りで、柱間寸法が微妙に異なることから、内部の梁^{はり}の配置に技巧をこらしています。縁まわりが木造と同じ型に造った花崗岩^{えん か こう がん}であることも目をひきます。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致

しょう じゅ らい こう じ むし ぼし え

聖衆来迎寺虫干会

聖衆来迎寺は、国宝に指定されている「六道絵^{ろく どう え}」をはじめとして、多くの寺宝を所蔵していますが、毎年8月16日に、本堂や客殿でこれらを展覧する「虫干会」が行われています。

江戸時代には、各地で寺宝の出開帳^{で がいちよう}が行われましたが、その名残ともいわれ、大正中ごろから8月15日・16日の2日間「来迎寺虫干会」として行われるようになりました。

戦後は16日のみとなりましたが、毎年多くの参拝者が訪れます。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



あきら ー

明良地藏堂

坂本や下阪本の周辺には、多くの地藏堂が建てられ地域の住民によって守られてきました。なかでも、坂本六地藏と呼ばれる六か所の地藏は、最澄が刻んだ地藏を円仁が配置したと伝えられています。

多くが簡素なお堂に祀られているなかで、坂本三丁目の「明良地藏」は、「明良地藏堂」の中に安置されています。お堂の前に建つ「地藏尊」の石碑には嘉永2年(1849)の銘が、軒につるされた鐘には寛政7年(1795)の銘が見られます。この鐘は地元の明良町が奉納したものです。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致

地藏盆

坂本や下阪本では、毎年8月23日と24日に、各町単位で地藏盆が行われます。地藏盆とは、子供たちの成長を見守るお地藏さんに、日ごろの報恩と感謝をささげる行事です。

地藏盆当日は、地藏の前に組み立て式の屋台を建て、提灯などの飾り付けやお供え物がおかれ、いつもは静かな町中に、にぎわいを感じることができます。また、地藏堂や自治会館では、子供たちの数珠回しや、町の人々による御詠歌の詠唱も行われます。

写真は、明良地藏堂で御詠歌を唱えているところです。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



坂本の町並み

延暦寺えんりやくじの麓ふもと、日吉大社の門前にひらけた坂本では、織田信長による山門焼き討ち後、延暦寺えんりやくじの里坊さとぼうや穴太衆積あのをしゅうみの石垣で特徴づけられる町並みが復興されました。

里坊は、山上で修行していた僧侶が高齢となり、山を降りて生活の場としたところです。道に面して門を構え、石垣の上には生垣いけがきや土塀をめぐらし、その奥に客殿と庫裏があります。石垣と建物の間には、地形を巧みにいかした庭園が作られています。

全国的にも類を見ない町並みとして、重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



旧竹林院庭園

坂本の多くの里坊さとぼうには庭園が残されていますが、そのうち10か所の庭園が「延暦寺坂本里坊庭園」えんりやくじとして国の名勝に指定されています。いずれも豊かな水を利用した池や流れの庭園で、力強い石組や繊細な水音をふんだんに使っています。

なかでも、旧竹林院庭園は、元あった庭園を改修したのですが、滝組を備えた流れの庭で、園内には大小二つの茶室と四阿あずまやが巧みに配され、庭園を散策しながら茶事を楽しむことができますよう、工夫されています。

※③比叡山とその山麓に見る歴史的風致



(提供:日吉大社)

ひ よし たい しゃ にし ほん ぐう ほん でん

日吉大社西本宮本殿

全国に3,800余りある日吉神社、日枝神社、山王神社の総本宮である日吉大社は、桓武天皇の平安京遷都により、都の鬼門を護る神社として、また延暦寺の守護神として崇敬されました。

大和国から勧請され西本宮(大宮、大比叡)と、比叡山の地主神を祀る東本宮(二宮、小比叡)からなります。

西本宮本殿は、大己貴神を祭神としています。織田信長による山門焼き討ち後、天正14年(1586)に再興されました。正面5間、側面3間の切妻造の前面と両側面に庇をめぐらすという、全国でも日吉大社にしか見られない平面構造で、日吉造、正帝造とも呼ばれ、国宝に指定されています。

※⑩山王祭に見る歴史的風致



(提供:日吉大社)

ひ よし たい しゃ とり い さん のう とり い

日吉大社鳥居(山王鳥居)

日吉馬場から境内に入り、大宮橋を渡って参道を進むと、木造の鳥居が見えてきます。二本の柱が八字形に内側に傾斜した明神鳥居の笠木に、山に見立てた合掌形の木が乗ったもので、山王鳥居と呼ばれています。

山形は日吉大社が、延暦寺の鎮守神であるところから、神仏習合の象徴ともいわれ、他に類をみないものです。

現在の鳥居は昭和15年(1940)の建築ですが、細部や各部材の長さの比率は江戸時代の伝統を受け継いでいるところから、滋賀県指定有形文化財に指定されています。

※⑩山王祭に見る歴史的風致



花渡り式



宵宮落し神事



神輿神幸

さん の う さい 山王祭

日吉大社の祭礼である山王祭は、坂本周辺の山・里・湖を舞台に繰り
広げられる盛大な神輿祭です。

2月の下旬から4月15日にかけて開催されますが、中心となるのは、4月12日
の午の神事、13日の花渡り式と宵宮落し神事、14日の例祭、神輿神幸と琵琶
湖上での栗津の御供献納祭、15日の酉の神事と船路御供献納祭、などです。

西本宮系と東本宮系の神事が複雑にからみあいながら、天台座主
による五色奉幣や読経のような神仏習合の姿もとどめています。

山王祭は、室町時代以降、「日吉山王祭礼図屏風」など、祭礼の様子を
描いた絵画作品も数多く残されています。

※⑩山王祭に見る歴史的風致